

令和 7 年度富山県 SDGs 推進連絡協議会 議事要旨

日時：令和 7 年 4 月 25 日（金）10:00～11:30

場所：富山県民会館 401 号室

1. 開会
2. 挨拶
3. 議事

(1) 「富山県 SDGs 宣言」事業について **資料 1**

富山県 SDGs 宣言の応募状況等について事務局から説明

(2) 富山県の SDGs の推進について **資料 2**

令和 6 年度の主な取組み、令和 7 年度の取組み予定について事務局から説明

【環境市民プラットフォームとやま】

- ・未来都市計画に挙げられている「環境」「経済」「社会」の 3 項目に沿って説明があったが、特にその中の「社会」の項目に関し、県は女性活躍や女性支援といった社会的包摂の部分も取り組んでいると思うが、その部分が抜け落ちてしまっている。女性支援や障害者支援、難病の子供ための支援や不登校の支援もしていると聞いており、そうした部分も記載するとより SDGs の理念の共有につながるのではないかと思います
- ・令和 7 年度の主な取組みとして記載されている SDGs 連携推進事業について、7 月 11 日にセミナーを開催するとのことだが、このセミナー開催だけで 280 万円かかるということか。それとも他の取組みもまとめて 280 万円かかるということなのか教えていただきたい。

【県】

- ・「社会」の項目として女性活躍や、難病の支援といった福祉面についても取組みを紹介してはどうかとのご意見について、ぜひそうした取組みも SDGs の取組みであるということを次回から反映し、共有できるようにしたい。
- ・SDGs 連携推進事業の 280 万円の内訳は、資料 1 記載の「富山県 SDGs 宣言」事業に係るホームページの経費が大半を占めている。ホームページでは SDGs 宣言をしていただいた企業を紹介しているほか、毎年度 10 社程度インタビューを実施し、その内容をホームページに掲載している。令和 6 年度までは 500 万円程度の予算を設け、セミナーやフォーラム、ワークショップも 3 回開催していたが、今年度からの未来都市計画策定にあたり、県内で SDGs の考え方や取組みが浸透している現状や、その裏返しでもあるが、SDGs の考え方や取組みが浸透したことで SDGs 単体でのセミナーやワークショップ開催では参加者あまり集まらないという現状も踏まえ、より効果的な開催のあり方を内部で検討した結果、自治振興セミナーと併催することとなった。こうした形にすることでより多くの方に参加いただき、連携も図ることができるのではないかと思いますことから、予算を縮小し、今年度は、ホームページでの啓発活動とセミナー開催経費として 280 万円計上している。

【日本青年会議所富山ブロック協議会】

・富山県 SDGs 宣言に自身の企業でも取り組んでいるが、宣言するとホームページに掲載され、年に一度活動内容を報告する必要がある。ただ、それだと企業側にメリットが少ないと感じており、今後もしかすると宣言をやめる企業も出てくるのではないかと思う。報告している取り組み内容を表彰するなど、発信する取り組みがないと今後の継続は難しいのではないかと感じる。

【県】

・SDGs 宣言の数は増えているが、企業側に報告という負担が伴う中、何らかの発信ができるよう検討していきたい。

(3) 各団体の現状報告及び意見交換 資料 3

委員から各団体での SDGs 推進に関する取組状況について説明

【商工会連合会】

・当会には中小企業研修センターという施設があり、そこに関連した新しい取組を紹介させていただく。この研修センターには貸室があるが、駐車場が極めて少なく、20 台程度しか停められないという弱み、課題がある。一方で目の前を路面電車が走っており、南北直通になってからは岩瀬方面だけでなく南富山まで行けるようになり、その路面電車の永楽町駅が目の前にあることから、路面電車を利用する方に帰りの切符を渡すという取組を開始した。利用者の負担軽減だけでなく公共交通利用促進にもなり、CO₂排出削減にもつながる。

・研修センターには会議室として 100 名程度入れる大ホールがあり、従来ホールは冬に大学の試験や模擬試験、資格試験の研修等で多く利用されている。そうした利用者は事前に登録があるため人数が特定でき、また 100 人も来ると車も停められないことから、そうした人に帰りに路面電車の切符をお渡しできないかと地鉄に相談し、賛同いただいたことから、今年度からこの企画に取り組むこととなった。

・企画が始まったばかりということと、利用者が 20 名以上という条件があり、その対象となる試験等が多いのは 12 月から 2 月の冬期間が多いこともあり実績はまだないが、今まで利用実績のある事業者には案内しており、今後実績が増えてくるものと期待している。

【富山県銀行協会】

・当協会は富山県に本店のある銀行 10 行の会員で活動している。その取引先は法人や個人など多岐に渡り、数多くの取引先があることから、まずは銀行協会としての取組、それからここでは地元地銀三行に絞っているが、各銀行の取組、そして銀行がお客様に対しどのような活動をしているかという三点を資料に記載している。

・まず銀行協会としては、例年金融セミナー、金融教育として銀行探検隊を開催している。自身も金融経済教育推進機構（J-FLEC）の認定アドバイザーとしてセミナーや学校の講義を行っている。

- ・また、地銀3行と信用金庫7庫が富山県警察本部と特殊詐欺防止に関する協定を2月に締結した。これにより具体的な情報交換ができるようになり、特殊詐欺と思われる事案が起きた際はすぐに対応できるようになっている。
- ・そして県との連携については、様々な事業や方策について各会員銀行に周知徹底しているところ。
- ・資料に記載はないが、4月になってから県と富山環境財団を招き、エコアクション21や脱炭素融資の説明会、それらに関する意見交換会を実施した。これを踏まえ、エコアクション21や脱炭素等について各取引先に周知徹底することとしている。
- ・今後は先述の特殊詐欺防止に関する協定締結に関連し、関係各所との定期的な情報交換や具体的な防止策の協議のため、協議会を開催する予定としている。
- ・各行の富山県SDGs宣言についてはホームページ記載のとおり。
- ・各行の取組みとしては、従来から実施している取引先のSDGs宣言の策定支援が定着してきており、SDGsに関する融資や寄付も広く県内で行われている。また、各行が独自に金融セミナーを開催するなど、銀行としてSDGsに取り組むと同時に、取引先のSDGsの推進にも取り組んでいる。

【環境市民プラットフォームとやま】

- ・当団体はSDGsを掲げ、主に市民レベルでの連携、それから市民以外の企業や自治体といった多くのセクターと連携しながら、みんなでSDGsを達成するため、パートナーシップを構築していくような活動をしている。昨年から現在まで注力している3つの活動を紹介する。
- ・1点目として、全国でSDGsを推進するSDGs市民社会ネットワークという市民団体のネットワークがあり、そこで3年間のプロジェクトを進めている。内容としては、SDGsは比較的企業や行政が目標に掲げることが多い中、地道に活動している市民活動自体はSDGsでフォーカスされることがあまりないという課題感があり、全国のNPO等の市民活動団体をSDGs目線で、1000以上の全国の市民組織がSDGsにどう貢献しているのか調査した。結果については資料記載のウェブサイトから確認いただきたい。
- ・SDGsには誰1人取り残さないというフレーズがあるが、昨年度はその下地となっている権利基盤型アプローチ(Rights-based approach)、略してRBAと呼んでいるが、その共有がとても重要だということで、動画を作成した。先日完成したところで、今後ウェブサイトにも掲載し、SDGsがバーッと世の中に広まり、もういいのではないかと、もう時代遅れではないかと言われている中、本当に大事なことは何なのかということを改めて共有するためにも、こうした活動を行っているところ。
- ・2点目として、おととしの能登半島地震をうけ、県や社会福祉協議会と協力し、災害時には市民組織も含めた官民連携が必要ではないかという動きが出てきていることから、そうした官民連携を県内で進めていく活動をしている。市民活動団体は多面的に様々な活動をしており、それが繋がっていることで災害時にもそれを活かし、例えば子供のケアができていない状況があれば、そこを得意とする団体が協力することで対応するなど、そういった連携を目指したネットワークの運営にも関わっている。

・3点目は、SDGsの進捗の共有をラジオを通じて行っているもので、富山シティFMで「PECとやまのSDGsカフェ」という番組を、毎月テーマを変えて放送している。SDGsがまだあまり広まっていない2020年には、身近な課題からSDGsを考えようと不登校やひとり親家庭、障害者、生き物のこと、それから外国籍の方や性的マイノリティの方の富山での現状や対応、対策に何が必要なのかという内容で放送していたが、昨年はそこから5年が経過したということで、もう一度その時にお話しいただいた方を呼び、この5年間でどう変化したのかをお聞きすることでその進捗の共有を図ったところ。

・例として、不登校をテーマに放送したが、この5年間でどう変化したかという、皆さんご存じのように不登校の数自体は全国的にも富山県内でも倍増しており、状況はあまりよくないと思われがちだが、一方で、不登校を支援する団体が増えており、団体同士で連携、協力が進んでいるということを星槎国際高校の飯田先生からお話いただいた。この取組みについては、別の学校に行くという選択をした場合、県が費用の半額を助成する取組みもあってとてもありがたいということで、こうして皆さんがSDGsを推進することで実際社会がどう変わっているのかという声を広げる活動を行っている。ウェブサイトにはこのアーカイブもあるため、興味のある方はご覧いただきたい。

・資料掲載の写真の左側の人が飯田先生で、「1」と「5」という数字が書いてあるのは、SDGsの進捗について、2020年では5段階評価で「1」だったものが2025年は「5」になったと主観的に評価していただいたもの。これは不登校の数は増えているが、支援しようとする体制、大人が増えているということの評価いただいたというものである。

【富山県女性財団】

・当財団では、県の男女共同参画や女性活躍推進の拠点施設である富山県民共生センター（サンフォルテ）の指定管理者としてその管理運営と事業を展開し、SDGsのゴールでは5番目の「ジェンダー平等を実現しよう」の項目を推進している。

・先ほど女性活躍等の項目の報告が抜けているという意見があったが、私も同様に、R6年度取組みには女性活躍の項目があったが、今年度の取組みには項目がなくなっていると感じており、次回より加えていただければと思う。

・当財団では、これまでも継続して取り組んでいることではあるが、地域社会における男女共同参画推進や固定的性別役割分担意識、無意識の思い込みの解消や女性の活躍推進といった、資料に記載の5つの事業方針に従い事業に取り組んでいる。

・具体的には大きく7つの分野で事業を実施している。相談事業では男性向けの相談も実施しているほか、情報提供としてはホームページでの発信や広報誌「サンフォルテだより」を年3回発行している。また男女共同参画の専門図書館はサンフォルテのみであり、その運営と調査研究等を行っている。

・講演会や講習会も数多く実施しており、男性向けのセミナー、小・中高校生向けのセミナー、女性の心と体、あるいは生き方といったテーマのセミナーを開催している。

・人材育成では、男女共同参画推進委員や地域の民生委員等を対象に出前講座を実施している。

・毎年6月の男女共同参画週間には2日間サンフォルテフェスティバルを開催しており、今年も6月28日、29日に実施予定である。

・女性の就業支援としては、働く女性のためのセミナーや初心者向けパソコンセミナー、DV被害者のための自立支援講座等を行っており、5番目のジェンダー平等だけでなく、他のゴールにも関連した事業で多くの県民にサンフォルテに来ていただくことで意識啓発に努めていきたい。

【富山市】

・富山市ではSDGs未来都市としてSDGsの更なる普及を図るため、今年2月に大人から小学生まで活用できる富山市版のSDGs学習ゲームを制作した。この学習ゲームはすでに市販されている

「ゲット・ザ・ポイント」というゲームを仕様はそのままに、カードの内容を富山市版（ご当地版）にアレンジしたもの。富山市版のオリジナルカードの内容は五福小学校や富山南高校、他にも大学生やSDGs包括連携を本市と締結している企業など、様々な方が参加するワークショップを開催し検討を行い、例えば「資源カード」「アイテムカード」というものがあるが、この中で富山市のまちづくりや特産品、芸術文化等を反映したものとなっており、SDGsをより身近な問題として捉えてもらうとともに、富山市の魅力の再発見にもつながる内容となっている。また、「イベントカード」というものもあり、富山市が実際に抱えている課題や、富山市が持続可能な社会の実現を目指すために取り組んでいる内容を反映させている。

・ゲームの内容としては、「鉄」や「化石燃料」、「海産物」等の資源カードを使い、「寿司」や「水素自動車」といったアイテムカードを作るというもので、アイテムごとにポイントが設定されており、その合計点を競うというシンプルなものとなっている。4人1組でゲームを行うが、1ゲーム目は個人戦として、4人のうち一番多くのポイントを獲得した人が勝者というルールになっている。2ゲーム目にはルールを変え、4人1組のチーム戦となり。4人で協力し、一番多くのポイントを獲得したチームが勝利となる。このゲームでは、1ゲーム目が奪い合い競争する社会、2ゲーム目が持続させるために協力する社会と、この2つの世界をゲーム上で体験できる仕組みとなっており、持続可能な社会とはどういったものか、なぜ持続可能な社会をつくる必要があるのかといったSDGsの基本となる考え方を学ぶことができる仕組みとなっている。

・先日の富山市の新採職員の研修でもこのゲームを実施し、非常にシンプルで子どもでも分かる内容ではあるが、大人がやっても面白いゲームであり、また大人であってもゲームを通じて気づきが得られるということで、手前味噌ではあるが、よくできたゲーム、仕組みだと実感をしている。

・今年度富山市ではこのゲームを活用したSDGs普及展開として主に3つを計画している。1点目に、富山市内の小・中学校においてこのゲームを活用したモデル授業を行い、この授業をすべての学校の教員が見学することで、このゲームを富山市内の小・中学校に普及展開したいと考えている。

・2点目として、このゲームを企業が研修で使いたい、地域団体が地域活動として使いたい場合に、無償で貸し出しを行っている。また、ゲームの進行にはファシリテーターが必要だが、ファシリテーターがいない場合には、市の職員をファシリテーター、進行役として派遣する出前講座も実施したいと考えている。受付は市のホームページのほか、直接電話でも受け付けており、もし興味があれば問い合わせいただきたい。

・3点目に、ファシリテーターを養成する講座を市主催で開催したいと考えている。9月を予定しており、定員はあるが受講は無料で、8月頃には市の広報やホームページに掲載する予定としている。

【南砺市】

・南砺市ではSDGsに取り組む前から地域資源の循環並びに地域課題の解消という観点から、エコビレッジ構想を立ち上げており、その構想がSDGsの考え方と親和性が高いことから、南砺市ではその一環としてSDGsに取り組んでいる。

・活動内容は県の活動と重なるところが多々あるが、まずは「なんとSDGsパートナー」事業で、市内の団体や企業に登録いただき、その活動を広報やインタビューなどを介して発信している。

・2点目に、地域課題を意識した取組み、連携を促進する企画の実施として、SDGsカフェの開催や、大学・SDGsパートナーとの連携活動に重点を置いている。

・その他にエコビレッジフィールド推進事業として、公民連携の手法を用いた住宅等の整備に取り組んでいるほか、県同様に南砺市も今年の3月に第3期のSDGsの未来都市計画を策定した。

・これまでSDGsに向けた普及啓発に取り組んできたほか、各事業のリーダーの選出ということで、未来創造塾という若手起業家の育成にも力を入れてきたところ。そのおかげもあり、ジソウラボやなんとエナジー、そして市民ファンドといった様々な団体が立ち上がり、動きが活発になってきている。

・市としてはこうした団体とうまく連携しながら実践に移行していく必要があると考えている。SDGsは2030年が期限であり、あと5年しかないことから、連携そして実践を3年かけて、活性化していきたいと考えている。

・今年から木質バイオマスにも取り組んでいるが、資金的になかなかうまくいかない部分もあるため、富山市はすでに実施しているが、今年度カーボンプレッジという取組みができないか、事業の可能性を探る調査を予定しており、新たな資金を調達することでその普及啓発や林業者の育成にもつなげていきたいと考えている。

・また、ゴールドウィングが「Play Earth Park」を整備され、良いフィールドが出来上がるため、昨日も「環境市民プラットフォームとやま」の堺さんと打ち合わせしたところだが、自然共生化へ向けた活動団体の方々かなり高齢化しているという状況もあり、今年度はこうした活動を持続可能なものにしていくためにどうしていけばいいかという方向性を導き出していきたいと考えている。

【滑川市】

・滑川市は未来都市に昨年度選定されたばかりで、第一期の未来都市計画を昨年7月に策定したところ。あるべき姿として、総合計画に掲げた「笑顔いっぱい 幸せいっぱい 光り輝く滑川」の実現を目指し、環境、経済、社会の項目ごとに目標を立て、これから実践していくこととしている。

・環境面の取組みとして、海の藻場造成のための調査を今年度から始める。藻場が減っているとされる中、実際どのくらい減っているのか、滑川の海に適した藻場の造成方法はこういった方法

なのかを調査していくこととしている。これから着手するためどの程度結果が出るか分からないが、長期的に取り組んでいきたいと考えている。

- ・経済面での取り組みとしては、昨年度から DX 推進課で始めた事業になるが、中小企業の DX 支援を目的として、DX に取り組みたい企業を選定し伴走支援を行っている。また、女性デジタル人材という観点で、出産や介護を理由に仕事を離れている女性を中心となるが、デジタル分野で仕事をしたいという人の資格取得支援等を行っている。

- ・社会面の取り組みとしては、今年度これから取り組む事業になるが、デジタル分野の取り組みを進めるとどうしても高齢者が取り残されがちになることから、高齢者のデジタル活用支援を行っていく予定としている。

【富山県商工会議所連合会】

- ・県内には 8 商工会議所があり、それぞれの会員、企業で様々な取り組みを行っているところではあるが、商工会議所として取り組んでいることとして、富山商工会議所では環境アクションプランを作成しており、昨年度で第 1 期の 3 年間が終了し、今年度からの 3 年間で第 2 期がスタートしている。その中で今一番取り組んでいるのは、所内の紙の減量化、DX 化を進めるということで、今年度重点的に取り組んでいきたいと考えている。

- ・高岡商工会議所では、高岡市や金融機関等と連携し、SDGs サポーターという取り組みをしており、着実に進められていると聞いている。

- ・黒部商工会議所では、地域力委員会で SDGs 普及推進等を 3 年計画で進めており、こちらも今年度が最終年度ということもあり、着実に進められていると聞いている。

- ・氷見商工会議所では、氷見市が未来都市に選定されたことから、そこに協力しているところ。

- ・その他の商工会議所についても、独自の取り組みまではないが、様々な情報提供やセミナー実施を通じて取り組んでいるところ。

【富山県中小企業団体中央会】

- ・本会の SDGs の取り組みについて、健康と福祉では健康経営に取り組んでおり、「とやま健康企業宣言（Step1）」の認定を受けている。

- ・また 36 協定の締結を通じて長時間労働の防止にも努めている。

- ・質の高い教育については、外部教育機関の研修等によって人材育成を図っている。

- ・ジェンダー平等については、各種ハラスメントの防止規定を作成し差別のない職場づくりに取り組んでいる。

- ・最後に、産業と技術革新の基盤をつくろうについては、国の認定を受けた支援機関として、経営革新等の支援も行っている。

- ・また、様々な業界の会員に対して SDGs の研修会等を開催することで、その推進に取り組んでいる。

【富山経済同友会】

・ 当会では 2021 年度に設立 60 周年を迎えるにあたり SDGs 宣言を行っており、その内容に基づき、持続可能な地域社会の実現に貢献するという観点から、3 つの側面で委員会活動を行っている。

・ 1 点目に、持続可能な企業経営として、企業の持続的発展と環境との調和に力を入れている。

・ 2 点目に、持続可能な人づくりとして、多様な人材が活躍できる環境づくりを行っている。

・ 3 点目に、持続可能な地域づくりということで、まちづくりや地域の活性化の取組みを行っている。

・ また、パートナーシップという観点で、地域や大学、行政などとのパートナーシップを確立し、全体として協力をしながら、持続可能な地域社会の実現に向け、その地域の課題解決に取り組んでいくという活動を行っている。

・ 今年度の事業計画を策定する定期総会を昨日開催したところであり、当会ではこうしたスタンスで今後も活動を展開していく予定としている。

【富山県経営者協会】

・ 協会の事業活動は長年企業と人にフォーカスした活動を基本としており、多様化する会員のニーズに対応した経営課題に関する調査研究を行っている。

・ また、あらゆる階層に応じた人材育成の研修セミナーの実施を通して会員企業の持続的な発展に寄与するような活動を行っている。

・ 令和 6 年度の主な取り組みについて、企業代表者や経営層向けに対しては定時総会や西部、富山、東部の 3 地区での地区懇談会の開催に合わせ、人口減少への対応や人的資本経営に関するテーマの講演会を 4 回実施し、来場とオンライン合わせて延べ 650 名の方に参加いただいた。

・ 当協会には総務交流委員会、人事労務政策委員会、教育委員会、品質管理委員会、環境委員会、経営企画 IT 委員会と 6 つの常設委員会があり、令和 6 年度は委員会活動テーマ「人的資本経営による企業価値向上」のもと、各社が抱える様々な諸課題を異業種の委員同士で議論、意見交換し、自社の問題解決につなげたことに加え、共通性の高い課題については、講演会、勉強会として会員企業にも参加を促し、持続可能な企業経営の指導を行っている。

・ 社員の能力向上を目的とする研修セミナーは新入社員から経営幹部までを対象とした階層別研修を軸に、労務管理、品質管理、生産管理、購買、営業、経理と部門別の研修セミナーを合わせて年間 54 回開催し、約 2000 名の方に参加いただいた。

・ 環境問題に関する取組みとしては、環境委員会が中心となってカーボンニュートラルに関わる勉強会や情報交換会、省エネ・脱炭素に関する企業の取り組みの事例発表を行ったほか、県内外の企業見学会を通じて持続可能な事業運営に取り組む企業を実際に体感する機会を設けるといった活動を実施した。

【富山県農業協同組合中央会】

・ 富山県 JA グループは県内に 14 あるが、すべての JA において持続可能な地域農業の推進及び地域社会づくりを行ってきた。元々協同組合であり、協同組合原則に関する ICA 宣言においても地域社会の持続的な発展に努めることが明示されていることから、あえて SDGs のために何

か新しいことを行うというよりも従来から行っている事業活動が SDGs のいずれかの目標に結びついていると考えている。

- ・例えば、JA グループでは JA 綱領というものを作っており、これが SDGs の 17 の目標と非常に親和性が高く、多くの面で SDGs に貢献していると考えている。具体的な例として、第一義的にはやはり安全・安心な農畜産物の提供を行っている。

- ・また、全国各地で進めておる「地産地消」の取組みや、全国運動である「国消国産」の運動は、まさに輸入に頼らずに飢饉ゼロを目指す活動につながっており、食料を長距離輸送することがないため、CO₂排出量の削減にも貢献していると考えている。

- ・加えて、食の安全への関心が高まっている中、とやま GAP の普及拡大にも取り組んでいる。

- ・JA には青年層組織、女性組織、生産組織など様々な組合組織があり、食農教育や食育活動、フードドライブへの食材の提供、子供食堂への協力、グリーンツーリズムや親子農業体験、助け合い組織による各種ボランティア、中山間地における移動購買車で買い物支援など、挙げればきりが無いほど様々な活動をしていると考えている。

- ・今まではこうした取組みについて、見える化や情報発信が少なかったと考えており、今後は実践に留まらず、地域の人々で SDGs について考える契機になるよう情報発信にも取り組みたいと考えている。

【富山県森林組合連合会】

- ・森林組合系統の団体は県下に 5 つあるが、すべて SDGs 宣言している。

- ・富山県農業協同組合中央会と同様に、当連合会においても基本的に森林を植えて、育てて、切るという仕事をしており、その仕事すべてが SDGs の目標で言うと 7 番と 13 番、15 番に直結しており、普段それほど意識していなくても地球環境のデザインや地球温暖化の防止に役立っている。

- ・また、すべての関係職員に対し、その自負を持って仕事に取り組むよう常日頃から様々な場を通じて伝えているところで、今後とも一生懸命取り組んでいきたい。

- ・植林後の面でも、県で無花粉杉を育生してもらっているところで、花粉防止という観点でも貢献していきたい。

- ・また、県からウッド・チェンジ協議会の説明もあったが、木を切った後も木材の利用を積極的に推進しており、都市の森づくりという観点から積極的に活動を行っている。

【富山県内水面漁業協同組合連合会】

- ・当連合会は、里山から海に至る河川を基盤とし、川魚を取り扱う協同組合の連合体となる。

- ・小さな川の漁業協同組合は組織体制が弱いこともあり、積極的に SDGs に貢献できてはいないかもしれないが、持続可能となるよう、川で魚を捕るだけではなく、放流等の活動も行っている。

- ・小さな組織も多いことから、意識レベルが上がるよう取り組んでいきたい。

【日本青年会議所富山ブロック協議会】

当会は性質上単年度制であることから毎年取組み内容が変わっており、特に SDGs に関して活動できているわけではないが、県の推進している内容に準じ、自分たちも取り組んでいる。

- ・当会は地域がより良くなるために活動している青年団体であり、皆様の活動と相通ずるものが多いと感じており、今回の協議会で挙げた皆様の活動内容を会の中で報告し、活動に活かしていきたい。

- ・また、青年会議所としては県内に 9 ブロック、所属する団体は 1,000 以上あり、その活動においては、関連市町村の SDGs に関する補助金を活用している事例もある。

【富山県婦人会】

- ・少し前までほとんどの人が SDGs という言葉を知らなかったのが、今はほとんどの人が聞いたことがあるという状況になってきているが、婦人会の会員も含め、具体的に何をすればいいのか、なかなか自分がやっていることと結びついていない。そうした中で、家庭や地域の中でできることを広める活動をしている。

- ・去年は能登半島地震があったことから防災に関する様々な学習会を実施し、その中で SDGs も広がっているように感じている。

- ・先ほどからいくつかの団体から指摘もあったが、男女共同参画についてジェンダー平等観点から言うと、地震があったことで、やはり女性のことを男性に解ってもらえていない部分があることがはっきりした。講演を聞いたり話し合いをしたりする中でも、例えば、トイレひとつとっても、女性にとっては大変な環境だったという話があった。

- ・非常袋に何を入れるのかという話であれば、今一番忘れてはいけないのは携帯トイレ。1 日何回使うのか、1 週間分だといくつ必要になるのか、ということまで具体的に計算して必ず非常袋には入れましょうという話をして、この部分は一步前進したと感じている。

- ・こうした様々な活動を通じて環境保全にも取り組んでおり、マイバック運動や食品ロスに関する活動も行っている。その中で今まさに具体的に取り組んでいることを挙げると、例えばティッシュペーパーやラップ類を私たちは使い捨てしている。これを何とかできないかということで、これに代わるものとして、例えばティッシュペーパーであれば小さいハンカチを繰り返し使うとか、ラップであれば前回の協議会の際に紹介した蜜蝋ラップというのがある。蜜蝋ラップは熱に弱いので電子レンジは使えないが、水で洗って繰り返し使うことができる。そうしたものをもっと広げたいと自分たちで作成し販売しているが、なかなか浸透しないというのが現状。

- ・いずれにしても、ごみを捨てる際など自分の身の回りでも SDGs を意識することが環境保全に繋がっているということを意識して活動を続けていきたい。

【富山県消費者協会】

- ・当協会は消費者の立場、消費生活の観点で様々な活動を行っており、SDGs については主に目標の 12 番の「つくる責任 つかう責任」に関し、特にエシカル消費の推進を通じて取り組んでいる。

- ・具体的に昨年度の実践活動としては、資料 2 の 4 ページに記載のある、エシカル消費 PR 事業を県からの委託を受け、当協会でも実施した。

・エシカル消費という言葉の認知度がまだまだ低いということで、若年層等をターゲットとし、公共交通機関等での広告掲載を実施した。駅の構内や車内で「エシカル消費」という言葉の浸透を図るため、今年2月の1ヶ月間、富山地铁のすべての鉄道や路面電車、路線バスの車内に広告を掲載した。また、電鉄富山駅のコンコース内の丸柱に大きな広告を掲載するなど、エシカル消費のPRを図っている。

・そして、毎年開催している「富山県消費者大会」について、昨年度は10月10日に開催しその中でエシカル消費をテーマとした講演を行った。

・さらに大学生による普及活動として、富山大学教育学部のゼミ生に協力いただき、まずは学生にエシカル消費について学んでいただいた上で、そのゼミ生が講師となって中央農業高校の高校生に出前講座を行うといった事業についても、県からの委託を受け実施した。

・その他にも、当協会では食品ロスの削減を目指してフードドライブも行うなど、広くSDGsに向けた活動に取り組んでいる。

【富山県社会福祉協議会】

・本協議会は理念として「ともに生き、ともに支え合う福祉の実現」を掲げており、これはSDGsの誰一人取り残さないという理念と合致する部分も多く、SDGsの目標達成を常に意識して様々な事業に取り組んでいるところ。

・多くの事業は本協議会だけで実施できるものではなく、市町村の社会福祉協議会やボランティア団体、市民団体の皆さん等のご協力を得ながら一緒に進めている。

・先ほど「環境市民プラットフォームとやま」さんから紹介もあったが、こうした民間団体の皆さんと協力しながら進めていきたいと思っている。

・能登半島地震以降、災害対応やボランティア活動の意識が高まってきているところでもあり、そうした観点からもSDGs達成に向け、積極的に取り組んでいきたい。

【県】

・まずはSDGsについて知ってもらうという段階から、それを今度はどのような形で持続可能なものにするのかという段階まで、2030年でのSDGs達成を目指し、見える化や実装化といった様々なフェーズの取組みが県内でも行われているということについて、各団体から報告いただいた。

・本日共有いただいたご意見等については、各団体のSDGsの活動の連携の一助としていただくとともに、県としても現在10年先を見据えての中期的な目標である総合計画を策定しているところであり、この中にもSDGsの取組みや考え方を取り入れていきたいと考えている。

・委員及びオブザーバーの皆さまには引き続きご支援とご協力を賜るとともに、一緒に様々な活動に取り組ませていただきたい。